

# 東北町林道施設長寿命化計画 (個別施設計画)

計画期間

自：令和4年4月1日

至：令和13年3月31日

東 北 町

令和8年1月(変更)

## 東北町林道施設長寿命化計画（個別施設計画）

### 1. 基本的事項

東北町が管理する林道施設は林道橋2橋である。それぞれ28年、47年経過しており、致命的な破損が確認されてからの修繕では、維持管理をしていくうえで莫大な費用が発生することが懸念される。

近年合理的かつ効果的な手法による公共資産の維持管理が強く求められており、今後増大が見込まれる橋梁の修繕等について、長寿命化を図り可能な限りコストを縮減していくことを基本方針とする。

### 2. 対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

### 3. 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

### 4. 施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

### 5. 施設の状態等

本計画の策定に当たって実施した点検・診断により把握された施設毎の状態については別紙のとおりである。

### 6. 対策内容と実施時期

上記「施設の優先度」及び「施設の状態等」を踏まえ、施設毎に講じる対策の内容及び実施の時期について別紙のとおり計画する。

### 7. 対策費用

個別施設毎の対策費用の概算については、別紙のとおりである。

なお、この金額は計画策定時点における概算であり、具体の工事発注時における詳細な設計や社会情勢の変化等により、金額に変動が生じる場合がある。

# 橋梁位置図





※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号		施設管理者	東北町
路線名	添ノ沢線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	添ノ沢橋
施設の所在地	東北町字添ノ沢	起点からの距離		建設年度	1997
供用年数	28年	種別	PC橋	型式	T桁橋
道路橋示方書	平成8年推定	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	清水目川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	20		幅員(車道幅員)	6
	施設の構造等	上部工型式	PC単純桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式橋台	基礎形式	鋼管杭	
橋脚工型式	—	海岸からの距離	—			
施設の目的利用実態等	交通量1日5台程度					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年8月22日				
	調査結果	橋台堅壁に漏水あととはく離。沓座モルタル及び排水管に腐食、変形・欠損。また、防護柵に防食機能の劣化が見られるが、緊急を要する変状ではない。				
	健全性の診断結果	Ⅱ 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態			
	劣化原因	経年劣化による				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年～令和13年				
	内容	令和8年度～令和13年度までに実施する対策については、定期点検結果及び日常点検に基づき計画・実施する。損傷の進行具合に応じて、令和13年度以降に横桁・床版断面修復工、伸縮装置補修等を実施。				
	実施予定時期	令和13年～				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 令和7年度の点検結果、対策費用を踏まえ、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	横桁・床版断面修復工、伸縮装置補修 約26百万円				
管理方法	定期的な日常点検、令和12年度予定の定期点検を実施し、橋梁維持を図る。					

	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年
対策費用(百万円)				1.6						26
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	補修工

備 考

損傷が軽微であることから、早急に対策する必要がないと判断した。  
次回（令和12年度）計画を見直す際に、前回点検からの損傷の進行具合に応じて再度補修時期を見直す。

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号		施設管理者	東北町
路線名	清水目板割線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	清水目深山橋
施設の所在地	東北町字清水目深山	起点からの距離		建設年度	1978
供用年数	47年	種別	PC橋	型式	ホロー桁橋
道路橋示方書	昭和47年推定	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	清水目川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11		幅員(車道幅員)	4
	施設の構造等	上部工型式	PC単純桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	不明	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	その他		基礎形式	不明
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林業関係者の利用が多くみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年8月22日				
	調査結果	橋台前面に凍害が起因とされるはく離・鉄筋露出が見られるため、状況に応じて、橋台壁の断面修復を行うことが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年～令和13年				
	内容	令和9年度に下部工補修、下部工表面処理、伸縮装置（目地補修）、地覆補修、防護柵補修を実施。以降は令和12年度実施の定期点検結果及び日常点検に基づき計画する。				
	実施予定時期	令和9年				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 令和7年度の点検結果、施設機能への影響を考慮し、優先度は「高」とした。			
	対策費用(概算)	下部工補修、下部工表面処理、伸縮装置（目地補修）、地覆補修、防護柵補修 約3.8百万				
管理方法	定期的な日常点検、令和12年度予定の定期点検を実施し、橋梁維持を図る。					

	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年
対策費用(百万円)				1.6		3.8				
対策の内容・実施時期				定期点検		補修工			定期点検	

備 考